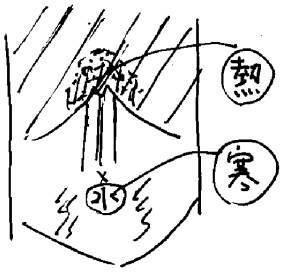
からだとは・病とは(60)　リウマチ・膠原病　　鈴木斉観（斉観堂鍼灸治療院）

少し以前のことである。治療に来ていた娘さんの紹介で慢性関節リウマチの患者が来た。70代前半の女性で、専門医にかかって7年目。左手第1・3・4指、右手第3指が特に痛く、肩・膝・足首等にも痛みがある。朝は動きにくく、痛みが強い。「リウマチの痛みをやわらげたい」と言う。また、食欲がなく、深呼吸を繰り返すと胸が痛む。リウマチの薬を飲んでから、軟便だと言う。

診ると、胸は全体に気が滞り、胸の下部中心部辺りに邪熱を感じる（熱気があり、異常なエネルギーが出ている)。上腹部は縦にすじばって硬く、ミゾオチに痞えがある。臍の下には水毒（水の滞り）があった。



胸の下部中心部辺りの熱と上腹部から臍下にある寒がバランスした形で病態が作られている。寒によって働きが落ちた胃腸はその防御機能を失調していて、本来ならアミノ酸まで分解して吸収するところを、蛋白質の状態で吸収してしまったり、何らかの毒物を吸収してしまい、それがアレルギー物質となったり、免疫機構を狂わせる物質となったりする。それが血液中に入り、血毒として、滞り易い胸の下部中心部辺りに溜まり、反応して邪熱を発散している。その血毒は全身を巡り、滞り易い関節部で反応して痛みを起こしている。そのように想像できた。

慢性関節リウマチは膠原病の一つで、自己免疫疾患とされている。つまり本来、外敵に対して働くべき免疫機構が、誤って自己組織を攻撃する。西洋医学的には原因は不明である。

東洋医学的には原因に関わらず、気の状態、特に邪気（異常でからだに悪影響を及ぼすエネルギー）や毒（異常でからだに悪影響を及ぼす物質）を診る。気が正常に流れて、身体の組織が正常に働くわけであるから、それが異常になれば、その状態によって様々な病態が生まれる。治療としては、その異常を鍼灸や漢方薬で無くすということに尽きる。

今回の治療方針は次のようになる。①毒の生産地である胃腸部の状態を改善。②胸の下部中心部辺りに邪熱が特に集まっているので、そこから効率良く邪熱を除く。③痛みが出ている関節から邪熱を除いて痛みをやわらげる。

①としては、腹部やその背部へ気の流れを良くする鍼を行った。②としては、胸下部の背部で邪熱がよく発散されている場所から、刺絡（少し血を出す鍼手法）を行い、黒く粘った血液を出した。③としては、痛みを感じる関節部で邪熱の発散されている場所に軽く刺鍼して邪熱を発散させたり、場合によっては刺絡したりした。

腹は緩んで、腹部を圧すと水毒がチャポチャポと音をするようになった。胸の滞りは減り、下部の邪熱も減った。関節の痛みも「楽になった」と言う。

週1回、時に娘さんと一緒に治療を受けた。一時、検査値が上がったが、関節痛は減っていたので、「薬はそのままで様子を見ることにした」。そして「知らぬ間に食欲が出ている」ようになる。精神的なストレスを受けた時などに悪化することはあったが、次第に良くなっていった。 7ヶ月後には検査値も下がり、薬を弱いものにするかと医者に言われるまでになる。そこで、娘さんに送って来て貰わなければいけないこともあって、治療は終了した。

その半年後、ご主人が坐骨神経痛の治療で来た時に付き添いで来たが、状態は落ち着いていると感謝された。(2012年12月冬至)